

# 平成28年度 第6回（震災後第70回） 陸前高田市保健医療福祉未来図会議 議事録

テーマ：「通いの場づくり ～このつながりを持ち続ける理由～②」

日時：平成28年9月16日(金) 13:30～15:30

場所：陸前高田市役所 4号棟第6会議室

参加：37名 14団体

資料：下記にアップ

<http://healthpromotion.a.la9.jp/saigai/rikuzentakata.html>

## 1. 挨拶

菅野民生部長：

震災前に知的障がい者のグループホームは7つあったが、震災により一挙になくなってしまった。震災後は、仮設のグループホームとして一部は中田の雇用促進住宅に入っていたが、今度はある意味で恒久的な災害公営住宅の栃ヶ沢に入るといふ、新しいスタイルができる。障がい者や障がいのある方は、顕在化しなくてもどこにでもいる。ただ、新しい施設に障がい者が入るといふ前提で、新しい人々がそこに集う初めての経験といふ、長期に考えれば一つのノーマライゼーションという言葉のいらないまちの実践の舞台にもなり得る。その面では、市としても栃ヶ沢の災害公営住宅について、どのように取り組んでいくかが大きな課題だと思っている。

陸前高田市には8つの地域があり、バリエーションに富んでいる。私も横田町に住んでいるが、田舎では地域を変えるのは大変だ。それでも新しい先を見つけていくには、栃ヶ沢のようなところから変えないと持続可能な本当の陸前高田をつくるということにはならない。きょうは、その辺のスタンスの話もしていただければと思っているので、よろしく願います。

## 2 内容

(1) 未来図会議のめざすこと ～一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて～

・陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏

(2) 報告

報告 「はまかだスポット」のあるまち

・民生部地域福祉課 課長補佐兼地域福祉係長兼社会福祉士 馬場勝基

報告 「横田に住んでいがった会議」から見えてきたもの

・横田町民生児童委員協議会 及川 昇氏

(3) グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

- ・テーマ：みんなで「はまかだスポット」マップを作ってみよう
- ・市内8町ごとに自分がもしくはお互い知っている「はまかだスポット」を書いていきましょう…！

#### 地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：

きょうは、はまかだスポットを皆さんからたくさん出していただき、それを地図に張っていくというところを行う。詳しい進め方は、後半に説明させていただく。

#### (1) 未来図会議のめざすこと ～一人ひとりが元気になる地域づくりに向けて～

(陸前高田市地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏)

未来図会議の目指すことは、「一人一人が健康で文化的な生活」「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの実現」であり、改めて、健康ということをご一緒に考えていきたいと思います。きょうのマップづくりは何のためなのか。単にこんな活動をしているのではなく、そのことが健康にきちんと結びついていくかを皆さんと確認したい。

ヘルスプロモーションを簡単に言うと「健康づくりをするために居場所づくりをしていこう」ということである。この健康の定義は皆さん何度も聞いていると思うが、実はこの定義では少し足りないのではないかとということで、99年に2つの言葉を加えた案が提出された。1つの言葉は「ダイナミック」、毎日が大事だということ。あと1つは、「スピリチュアル」。霊的と訳して誤解されることがあるが、元気や楽しみといったことである。私は、オリンピックで元気をもらった。このような楽しみや安心感が非常に重要だということは、健康づくりの分野では常識である。高校の保健体育の教科書にも、「一人ではなかなか続かない、みんなで元気になろう」ということが非常に重要だと繰り返し強調されている。

ヘルスプロモーションに関しては、日本は後進国である。なぜかということ、どうしても健康というと「病気にならない」「健診を受ける」「食生活を改める」などに力が入ってしまうが、WHOは1986年から“まず環境をつくろう”“地域の居場所づくりで健康づくりをしよう”そのために、地域活動を強化する必要があると言っている。

さらに、行政向けのメッセージとしてヘルスサービスの方向転換をすること。住民に健康になってもらうためには保健分野以外の役割が効果的なこともある。陸前高田で言えば保健課だけが頑張るのではなく、他のところの役割が大きいということである。そして、家族や地域の方々を巻き込み、ネットワークをつくるために自分でできること、ともにできること、そして行政はネットワークづくりを頑張ろうということをヘルスプロモーションでは言っている。

もう1つ大事なことは、「ソーシャル・キャピタル」という考え方である。「信頼」「ネットワーク(きずな)」「お互いさま(ほだし)」の3つがそろると人間は健康になり、自殺も減り、総死亡率も減る。さらに、まちおこしにもつながる。きょうは及川さんに話を聞くが、単に健康づくりだけではなく、まちおこしや元気づくりに「ソーシャル・キャピタル」がどういう効果を発揮しているのかを伺いたい。

また、ソーシャル・キャピタルを進めていくには、日々の地元での継続的な活動が大事だということなので、どんなはまかだスポットがあるのかを最後に皆さんと確認したい。

## (2) 報告「はまかだスポット」のあるまち

(民生部地域福祉課 課長補佐兼地域福祉係長兼社会福祉士 馬場勝基)

「通いの場づくり ～つながりを持ち続ける理由～」ということで、イメージしやすいのは何かと考えたときに、まず1つに数字だと思い、高齢化率を表にした。今回私が言いたいことは、「高齢化という視点の部分で、少し地域のことを考えてみないか」ということである。市内全域のデータでは65歳以上が36.7%となっているが、65歳はまだ元気だということで、75歳以上のデータもあるので、よろしければ活用いただきたい。その中で、65歳以上で40%を超えている地区は矢作町(42.7%)と小友町(40.0%)、ぎりぎり広田町(39.7%)、横田町(39.2%)がある。小友町の高齢化率の原因は何か気になるところである。

前回、はまかだスポットで3つのグループに活動を紹介してもらったが、こちらのスライドは「はまらっせん農園」といい、石木先生が会長をされている。下和野団地で実際につくられている畑の様子だが、市内13カ所で畑をつくり、できたものを皆さんで分ける、イベントの際に具材として使うなどの活動をしている団体である。

次のスライドは、栃ヶ沢の団地で行っているラジオ体操である。皆さんはここに出ることによって、「ああ、きょうも元気だった」と、1つの目的を通してお互いがお互いを見守っているという自然な関係がある。

きょうは2つほど皆様に報告がある。1つ目は、平成28年度「エイジレス・ライフの実践事例」及び「社会参加活動事例」において「認知症にやさしい地域支援の会」が、内閣府から紹介事例として決定した。非常にとうとい活動ということで、全国的にも認められた。「認知症にやさしい地域支援の会」は、「はまってけらいん、かだってけらいん」と全く同じで、地域でその人らしく生活するために、認知症や認知症でなくても、地域でどのように支えるか。ケアの方法や声がけの仕方を市民の皆さん、小学生、お孫さんにも事例を伝えている団体である。皆様から声がけいただければ、先生たちも「年とったからやめるか」「疲れた」と言っているのを、「もう少しやってみるか」という気持ちになれると思うので、お願いしたい。

2つ目は、「復興サポートステーション パクト」の活動である。被災者(主に高齢者)の個別ニーズに対応するべく、買い物の支援(本人+パクト)を実施し、本人と顔を合わせる機会を多く設けた。ある方は、2年ぶりに自分で買い物ができ「楽しかった」と生き生きとした表情で話していたのが印象的だった。

きょう皆さんに配ったチラシは、「個別の対応やボランティアを希望する」「ボランティアをしたい、してほしい」ということがあれば、連絡いただきたいということで、パクトからお預かりした。

この後及川さんに、横田での実践事例を行った結果ということで、生の声を皆さんに披露していただきたい。

## (2) 報告「横田に住んでいがった会議」から見えてきたもの

#### (横田町民生児童委員協議会 及川 昇氏)

横田町は北から南に気仙川が流れており、その川沿いに国道が走っている。高田町から川沿いを右手に、川上に1区、2区、3区、4区、5区、6区で折り返して、川向かいで7区、8区と8つあり、家に行くためには国道から山手沿いに上って歩くため、高齢者にとっては厳しいところである。

横田に住んで良かった！ を実現する会議は、「何もない町で生き続けるため」「横田で良かったと最期を送れる町にするため」には、何が必要なのかという発想から始まった。自分たちがどんな老後を過ごしたらいいか、老後を楽しく過ごすためにどうしたらいいかということ、自分のことに置きかえて地域ケア会議を進めてきた。きょうここにいる何名かの方は、この会議に出席していると思うが、今住んでいる自分たちの町の問題や困り事をみんなで話し合い、「自分たちがこうすれば幸せになれる」「何もない町で暮らしていくためには、どこを変えればいいのか」など、意見を出し合った。

会議には、16団体に声をかけて参加していただいた。スライドは会議の風景になるが、大体4つのテーブルに分けて自分の思っていることをメモに書いて張り出し、話し合ったことを模造紙に書き込んでグループごとに報告している。これはグループごとの報告資料だが、横田町民の意識調査をするために暮れにアンケートを実施し、3月に集計結果を全戸に配布した。

このアンケート結果の満足度と今後の課題だが、高齢者が1カ所に集まるのはやはり難しい。小さく分けて、自分の足で歩いて通える程度の場所に「おしゃべり場」や「話し合いの場」ができるといい。最終的には各行政区が主体で進めるのが、地域住民にとって一番いいと考えている。

実際にこの会議が終わってから、私たち4区はBBC（ぼけ防止クラブ）をつくり、お茶っこ飲みや中国語の勉強会などの活動を行っている。また5区は春先から毎月5のつく日に集まり、自分たちの部落をどのようによくするかという話し合いをしている。

#### 地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：

横田町の活動を聞いたが、実際に市内でさまざまな活動が行われていると思う。それをマップに落とし込んでいくが、マップのイメージを岩室先生から願う。

#### 地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：

皆さんの前に張ってあるのが Google Map でつくった地図であるが、今回集められた情報、地区公民館、コミュニティセンター、サロン、グラウンドゴルフなどをマップに落としした。例えば「精米サロン」をクリックすると、写真が出てきて場所や具体的な活動がわかる。「親子の広場」や「きらりんきっず」など、URLがあるところはクリックするとホームページにつながる。壁に張られているのは、これを拡大コピーしたものだが、ここに載せてほしいものを皆さんとシェアしたいと考えている。

#### 地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：

初めてなので私もどうなるかわからないが、ひとまず書いて張ってみて、歩くということになる。きょうは6つのグループに分かれていただいたが、陸前高田市には8町ある。どこにでも構わないので、どんどん張って歩いて、最後に感想などを伺いたい。

#### 〔はまかだスポットマップ作成〕

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

岩室先生にパソコンを使って、皆さんからいただいた情報を Google Map に落とし込んでいったものを見てもらう。

**地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

Google Map で、陸前高田を出してデータを入れて使えるようにする。住所で読み込み、表示名は事業名にするだけで勝手に読み込んでいく。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

基本的には、皆さんに書いてもらった情報をエクセル（CSVファイル）にして落とし込める。

**地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

先ほど、「千代田コーラスを載せて」という注文があった。写真も載せてほしいというので、別のところにあった写真をアップしたが、何となくイメージがしやすいと思う。

また、日常スポットでマイヤと竹駒のベンチがあるが、ベンチのところにはまかだの旗を立てて写真を撮っておくと、ここもスポットになるのではないか。

#### （3）グループで「はまってけらいん、かだってけらいん」

テーマ：みんなで「はまかだスポット」マップを作ってみよう

- ・市内8町ごとに自分がもしくはお互いに知っている「はまかだスポット」を書いていきましょう…！

**地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

皆さんの中に、早く見たいという方がいるので、はまかだマップ試作中をつくった。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

きょう出たスポットは、矢作 10 個、横田 11 個、竹駒 13 個、気仙 9 個、高田 43 個、米崎 25 個、小友 14 個、広田 11 個、全部で 136 個ある。今後、もっと増やしていきたい。

では、各グループから①やってみての感想、②完成へ向けての意見をいただきたい。

**1 グループ発表：復興支援連絡会 佐藤氏：**

①やってみての感想では、把握していないところがたくさんあるということに気づかされた。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

完成に向けての意見で、こういうつくり方がいいのではないか、ということはお出なかったか。

**第1グループ 復興支援連絡会 佐藤氏：**

はい。

**2 グループ発表：蒲生紋子保健師：**

①やってみての感想は、意外とみんなスポットを知らないという意見が出た。②完成に向けての意見は、参加している人たちが限られているため、地域の方々にも参加してもらって地域の情報がわかるのではないかと。各ジャンルや団体などを階層化して色分けしていくと、見やすくなるのではないかと。データでつくるが、高齢者も見やすいようにするにはどうしたらいいかを検討することで、もっといいものになるのではないかとという意見が出た。

**地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

今回作業をやってみて思うことは、幾つかバージョンをつくらなければいけない。専門職の皆さんが使いやすいものということを第一歩にしたいと考えている。

**3 グループ発表：蒲生恵美保健師：**

②完成に向けての意見は、公民館長や区長さん、婦人部からの情報収集があるといいのではないかとこのものが上がった。

**4 グループ発表：千葉春香保健師：**

②完成に向けての意見では、「有料・無料か」「どこを対象としているのか」という情報も見られれば参加しやすい。「アクセス方法（そこまで行くにはバスで行ったらいいいのか、徒歩でどのくらいかかるのか）」などもあるとうれしいということが出た。

ほかに、活動名はないが、一つのカテゴリになっているもの（グラウンドゴルフや百歳体操）を検索すると、市内の活動が出てくるようになるとうれしいということが出た。

**地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

ジャンル別に色分けすることで、グラウンドゴルフだけ出てくることもできる。そういう意見がほしい。

**5 グループ発表：遠藤保健師：**

①やってみての感想は、地域によって偏りがある。今後どのように情報を集めていくかが

大事だ。②完成に向けての意見は、一目でわかる写真の活用がいいという意見が出た。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

きょう出たものは入力したい。

**地域包括ケアアドバイザー 岩室紳也氏：**

基礎データを作成する際に住所は岩手県から入れていただきたい。また、皆さんが表を見て打ち込んだものを送っていただけると、コピー&ペーストするだけで簡単にできてしまうので、協力していただくと難しくないと思う。

**地域包括ケアアドバイザー 佐々木亮平氏：**

今回は10月14日になる。出張未来図会議ということで、栃ヶ沢災害復興公営住宅の集会室に伺って実施させていただければと思う。県下で一番多い300戸という世帯数の皆さんの生活が始まったので、どれだけの方にお集まりいただけるかわからないが、また皆さんとはまってかだって、話ができたらと思っている。

### **3 その他連絡・アナウンス**

**NPO法人岩手自殺防止センター 藤原氏：**

11月26日(土)午後～、長部コミュニティセンターで「お茶っこの会」を「青森のほほえみの会」の方たちが来て開催する。特色は、6時から「出張赤ちょうちん」ということで、男性陣を対象にアルコールを持ち込んで開催する。

**千葉愛実 保健師：**

藤野恵美先生に講師をお願いして、ストレッチやエアロビクスなどの代謝アップや脂肪燃焼に効果のある教室を開催する。日程は10月・11月の月2回の計4回。会場はコミュニティホールで定員50名。電話で保健課への申し込みとなっている。

対象は、おおむね40歳～64歳だが、生活習慣病の予防に興味のある方、どなたでも参加可能である。チラシが欲しい方は私まで連絡いただきたい。よろしく願います。

**◇次回：平成28年10月14日(金)**

メインテーマ(仮)：※主張未来図会議 栃ヶ沢団地の「未来」について  
はまってけらいん、かだってけらいん

会場：栃ヶ沢災害復興公営住宅 集会室